

新学期がはじまり数カ月が経過しようとしています。多くの医療機関（組織）にもフレッシュな人材が加入編入されたことと思います。新卒さんや転属の方たちもやっと仕事の内容や職場の雰囲気にも慣れてきた頃ではないでしょうか。新たな環境に飛び込み、一定の成果を発揮するためには多くの試練があるはずですが、一方、受け入れる施設や組織側もこのような人たちがスムーズに溶け込めるよう、速やかに効率的な仕事ができるように教育システムの確立や医療トラブルの回避に多大な労力を投資していることと思います。このような双方の奮励がありながらも、新加入の方々が正しい方向で闊達に活躍できることは、組織にとっても職場環境の風化を予防し、さらに飛躍するための活力になることは間違いありません。最近では組織帰属意識の相違や環境変化への不応性などにより長続きしない方々も多いと聞きます。このような非効率をなくすため、現状を把握し問題点を抽出し、さまざまな角度から解決のアプローチを模索しなければならず、ある意味移植治療の状況と似ているかもしれません。

さて、今回体幹四肢の神経機能が凝縮した脊髄の再生治療に関する特集です。生体内では最も再生が難しい分野と思われるのですが、注目度と期待度が高い治療領域であり、国家を挙げて研究、実臨床への推進がなされているプロジェクトです。専門性が高いため、一臨床家にとっては理解に苦しむワードやメカニズムも多いのですが、受傷経過による損傷脊髄の変化や再生治療のターゲット、治療の問題点や阻害因子について論述していただきました。損傷脊髄の障害範囲をいかに最小限にするか、神経再生の阻害因子をどの程度排除できるか、神経栄養因子や細胞移植をどのタイミングでいかに効率的に使用するか、グリア瘢痕組織の形成などを抑制しいかに回復しやすい環境にするかなど、積年の研究努力とアイデアがまとめられた熱意の込められた内容です。たとえ慢性期であってもブレイクスルーがあり得ること、また、リハビリテーションの役割が大変重要であり、脊髄再生環境を改善し、ほかの再生治療との相乗効果をもたらす点は、自らの回復能力を高める手法として興味深い点です。新人の移植細胞あるいは液性因子が、たとえ過酷な環境であっても包括的な工夫により脊髄損傷部位に作用し大活躍してくれることを願います。

脊髄脊髄疾患に関する最も崇高な命題を企画編集された中村雅也先生と、脊髄再生の難題に取り組み、研究と臨床の現状と課題をまとめていただいた執筆者の先生方にあらためて深謝いたします。

（高橋敏行）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 31 No. 6
（2018年6月25日発行）

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ごめ予約購読料 30,700円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2018,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。